

不動産やホテルのほか、介護事業を手がける(株)イニチ(六井元一代表取締役社長、浦安市北栄1-16・3)のグループ会社である(株)MUM(同)は3日、介護付有料老人ホームの(株)舞浜俱樂部新



完成イメージパース(右奥が増築部分)

地鎮祭で無災害祈願

浦安フォーラム(浦安市高洲1-2-1)で、医療・福祉複合施設(仮称)増築工事の地鎮祭を厳かに執り行い、来年2月末までの施工期間中の無事故・無災害を祈願した。

当日は、来賓の松崎秀樹浦安市長のほか、関係者約50人が参式。歛入の儀では、設計・監理を手がける(株)伊藤喜三郎建築研究所の原勇次代表取締役社長が鎌を、(株)MUMの六井社長が鍬を、施工を担当する(株)松井建設の松井隆弘代表取締役社長が鋤を入れ、関係者の代表らがそれぞれ玉串を奉じ、神事は滞りなく閉式となった。



(上から)原社長による鎌入れ、六井社長による鍬入れ、松井社長による鋤入れ

当日は、来賓の松崎秀樹浦安市長のほか、関係者約50人が参式。歛入の儀では、設計・監理を手がける(株)伊藤喜三郎建築研究所の原勇次代表取締役社長が鎌を、(株)MUMの六井社長が鍬を、施工を担当する(株)松井建設の松井隆弘代表取締役社長が鋤を入れ、関係者の代表らがそれぞれ玉串を奉じ、神事は滞りなく閉式となった。



松崎市長



ストランドセル総支配人

その後の直会(なわら)で六井社長は、今回の事業について、医療・福祉の連携と、手狭となった既設の介護付有料老人ホーム・富士見サンヴァアロ移転の2つの重要な意味があることを説明し、新施設を新たな我が家としてほしいと熱く語れば、新施設に入居する医療法人社団やしの木会浦安中央病院の高須信美院長は、地元の人に役立つ、愛される施設にしたいと抱負を述べた。

また、原社長が「設計に当たっては、効率的で機能的、安全・安心でかつ居住環境づくりを考慮した。完成が楽しみ」と語り、松井社長は「今回施工するスタッフは、3年前に(隣接する)新施設建設の相談を受け、その願いが叶ったことを喜んだ上で「事故やけがないよう無事に落成してほしい」とあらためて要望した。

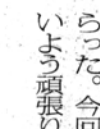
浦安フォーラムの建設に携わった時と同じ。立派な建物を無事に完成させたい」と約束した。元スウェーデン福祉研究所取締役で、施設を運営する舞浜俱樂部のグスタフ・ストランドセル総支配人は、母国の福祉スタイルを持ち込んだことに触れ「一つの地域の中で、一つの看護と医療の両立が叶う。それぞれの専門分野の人が1個所に集まって仕事をすることは、日本では例も少なく難しいと思うが、手を取り合

い」と誓った。増築施設は、1方890.71㎡の敷地に、RC造地下1階地上7階建て延べ7941.45㎡の規模で建設される。1〜3階部分は病院として、浦安中央病院が入居する。4〜6階は富士見サンヴァアロが統合移転して「新浦安サンヴァアロ」に改称、居室やリビングなどを配置する。部屋の形式は認知症の患者に対応できるように可能な限り同じ間取りを再現するとい

舞浜俱樂部は市内の施設で「スウェーデン式ケア」を採用。不安や痛みを緩和する「タクティールケア」や、音楽で脳の活性化を促す「プランネ法」を取り入れるなど、独自の介護サービスを提供している。

設計監理
伊藤喜三郎 建築研究所
施工
松井建設

現場代理人・松井建設(株)東京支店建築第一部長 向川朋宏工事長のコメント：以前に新浦安フォーラムの建設にも携わらせてもらった。今回も事故のないよう頑張りたい。



現場代理人・松井建設(株)東京支店建築第一部長 向川朋宏工事長のコメント